A　（ 16 ）年度委託　　（作物名 キュウリ）

対象病害虫名　アブラムシ類（ワタアブラムシ）

試験場名　(社)日本植物防疫協会研究所宮崎試験場　　担当者氏名　飯干浩美　井園佳文

1．試験目的（依頼事項）　防除効果及び薬害の検討

2．試験方法　試験地場所　宮崎県宮崎郡佐土原町　(社)日本植物防疫協会研究所宮崎試験場内 施設

対象病害虫発生状況　中→多発生

耕種概要(品種･施肥･一般管理)　品種：翠星節成2号　ビニールハウス栽培　播種：平成16年11月8日　定植：12月10日

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積　1区　5.8㎡（1.65m×3.5m）　14株　3反復

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

（処理年月日・処理量）平成17年1月7日(207ℓ／10a)、1月10日(287ℓ／10a)、1月13日(287ℓ／10a)

展着剤は使用しなかった。

（処理方法）薬剤は、背負式全自動噴霧器を用いて葉の表裏がよく濡れるように散布した。

（作物のステージ）生育期～収穫初期

調査月日・方法

（調査月日）第1回処理前(平成17年1月7日)、同処理3日後(1月10日)、同6日後(1月13日)、同9日後(1月16日)

（調査方法）各区6株の任意3葉(計18葉)に寄生する虫数を有翅、無翅別に調査した。薬害は各調査日毎に肉眼で観察した。

3．試験成績

表1

供試薬剤 成分量(%)	希釈倍数 処理回数		18葉当たりの寄生虫数 第1回処理前(1/7) 有翅	無翅	処理3日後(1/10) 有翅	無翅	処理6日後(1/13) 有翅	無翅	処理9日後(1/16) 有翅	無翅	薬害(汚れ)
牛乳 [redacted] Lot No. BI 05.01.18/KV OA 05.01.23/KV	原液 3日間隔 3回処理	I	2	390	14	861	48	1597	47	2810	±
		II	15	323	47	342	41	920	95	1860	
		III	7	180	14	202	19	384	29	1078	(+)
		平均	8.0	297.7	25.0	468.3	36.0	967.0	57.0	1916.0	
		計		305.7		493.3		1003.0		1973.0	
粘着くん液剤 ﾃﾞﾝﾌﾟﾝ 5% Lot No. 21018	100倍 3日間隔 3回処理	I	9	369	9	155	3	60	0	28	−
		II	3	228	4	90	7	68	0	54	
		III	7	205	10	144	4	137	1	100	(−)
		平均	6.3	267.3	7.7	129.7	4.7	88.3	0.3	60.7	
		計		273.6		137.4		93.0		61.0	
無処理	—	I	7	348	19	1750	54	2370	44	4430	—
		II	2	225	10	695	28	1250	43	2300	
		III	5	173	15	509	29	842	49	1620	(−)
		平均	4.7	248.7	14.7	984.7	37.0	1487.3	45.3	2783.3	
		計		253.4		999.4		1524.3		2828.6	

表2

供試薬剤	希釈倍数	補正密度指数 第1回処理3日後	処理6日後	処理9日後
牛乳	原液	40.9	54.5	57.8
粘着くん液剤	100倍	12.7	5.7	2.0
無処理	—	100	100	100

対象病害虫名　アブラムシ類（ワタアブラムシ）　　試験場名　(社)日本植物防疫協会研究所宮崎試験場

4．考　察

牛乳　原液　3日間隔3回処理

本剤は対照の粘着くん液剤 100倍3日間隔3回処理と比較し劣り、無処理区と比較しても僅かに防除効果は認められたものの、その程度は低かった。実用的な効果は期待できないと考えられる。

また第3回処理3日後以降葉裏の葉脈に沿って褐変化する薬害が認められた。第1回処理以降散布回数を重ねるにつれて葉表や果実への汚れ（白色化）が進み、牛乳臭も酷く、散布区の土壌表面にカビが発生した。実用上問題があると考える。